

授業科目 (科目ID)	自然科学	担当教員  (実務経験)	柄澤 匠  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 市内大学大学院に所属		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	【生物学】他の科目の参考となるよう、DNAから生態系まで、生物学の基本的な知識を学ぶ。【物理学】私たちの生活には物理学により説明できる事象が沢山あり、携帯電話をはじめとする物理学を応用した機器も多い。また、介護・医療の現場でも物理学に基づいた考えは欠くことができない。この授業では、物理学の基礎を学び、理解し、それぞれの分野で私たちの生活、介護・医療との関連性を考える。				
到達目標	【生物学】DNAから生態系までの、生物学の基本的な知識について説明できる。 【物理学】数式を理解し、物理量の計算ができるようにする。				
テキスト・ 参考図書等	系統看護学講座 基礎分野 生物学 第9版 まるわかり！基礎物理 2011年				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	・定期試験を評価 ・各領域でそれぞれ6割以上を合格とする		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	前もって教科書を読んで授業をうけること。学んだことをその日の中に思い起こすこと。疑問点が残ったら早めに解決すること。なお、三角関数については予習しておくことが望ましい。講義を聞いて興味を持った分野は、少しでもよいので関連する事柄を自分で調べてみる。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	【生物学】:細胞のつくりとはたらき	細胞の構成要素と、それぞれの担っている役割について説明する。		
	2	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	3	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	4	生殖と発生	生物が子孫を残す方法と仕組み、および生物の体が形成される過程をみる。		
	5	生命の維持と調節	生命体の様々な系・器官とその役割について説明する。		
	6	刺激の受容と行動	生命体が外界の情報を受け取り、反応する仕組みについて説明する。		
	7	生命の起源と進化	長い時間の中で移り変わる地球環境の中で、生命の進化の歴史をみる。		
	8	【物理学】:物理のルール	物理で使う数字・文字のルール 物理で使う数学		
	9	力学の基本	速度が変わらない運動 途中で速度が変わる運動		
	10	物体の運動と力	力の表し方と力の式の使い方		
	11	圧力のはたらきと物を回転させるエネルギーと運動量	身のまわりの圧力とその影響、物を回転させる力とつり合いの状態、いろいろなエネルギー エネルギーの保存		
	12	気体の運動	熱の基本的な性質 気体が周囲におよぼす力		
	13	波の性質	波の表し方と2種類の波 波ならではの現象		
	14	音と光の現象	音の性質と音程の変化 波としての光の性質		
15	オームの法則	電流と電子の流れ オームの法則			



授業科目 (科目ID)	情報科学 I		担当教員  (実務経験)	赤尾 みどり  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> IT講習、雇用促進等のインストラクターとして30年以上に わたり従事		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsoft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、それらを利用して、パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。					
到達目標	①Wordを使ってレポートが作成できる。 ②Excelを使って表や図が作成できる。 ③PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 Windows 10対応					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	・各試験の平均点50% ・提出物50%			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	50%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	情報処理の基礎(序章、第1章)	Windowsとインターネットの基礎(SNSの安全な利用、著作権、情報セキュア、校内ネットワークの使い方)、文字入力とタイピングの基礎			
	2	文書化の基本(第2章1~2)	印刷様式、文字装飾			
	3	文書化の基本(第2章3~4)	作表1、画像・図形の利用1			
	4	文書化の基本(第2章5~6)	作表2、画像・図形の利用2			
	5	文書化の基本	練習問題、レポート作成			
	6	表計算ソフトの活用(第3章1~3)	データ入力とワークシートの編集			
	7	表計算ソフトの活用(第3章3~4)	四則演算と関数の基礎、作表と編集			
	8	表計算ソフトの活用(第3章6)	グラフ表現の要点とグラフ作成			
	9	表計算ソフトの活用(第3章5)	条件判定と順位付け			
	10	表計算ソフトの活用	練習問題、ファイル管理			
	11	プレゼンテーションソフトの活用(第4章1~2)	スライド編集、文字装飾と図形の活用			
	12	プレゼンテーションソフトの活用(第4章3~4)	特殊効果(グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果)			
	13	プレゼンテーションソフトの活用(第4章5~6)	表・ワードアートの挿入、テーマの設定			
	14	プレゼンテーションソフトの活用(第4章7)	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識			
15	プレゼンテーションソフトの活用	総合演習、プレゼンテーション				

授業科目 (科目ID)	心理学	担当教員  (実務経験)	久原 奈緒子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内スクールカウンセラーとして10年の実務経験あり		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	心理学はどのような学問か、歴史と研究方法、また、環境へ適用していく上で心はどのように役立っているのか、心の仕組みはどのようにしているのかについて、幅広い心理学の中から代表的なものについて学んでいきます。				
到達目標	心理学の基礎知識、心理学の分類や歴史、脳の働きと心の関係について理解した上で、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、様々な分野への心理学の応用、人間一般の行動の法則性を修得することを目的とします。				
テキスト・参考図書等	教科書 社会福祉士シリーズ2心理学理論と心理的支援 (ISBN978-4-335-61072-1)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験および提出物にて評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	心理学とは？	心理学の発祥、心理学の領域、他の学問との関連		
	2	性格心理学①	類型論、特性論、構造論、局所論		
	3	性格心理学②	性格の形成要因		
	4	性格心理学③	心理検査、交流分析		
	5	心の病理と健康①	心の健康と発達(フロイト、ユング、ピアジェ)		
	6	心の病理と健康②	防衛機制、愛着		
	7	知覚心理学①	感情と情動、表情と情動、弾力性感覚器官、知覚特性		
	8	知覚心理学②	人間のものの見方、見え方、感じ方		
	9	発達臨床心理学①	胎児期、乳児期の発達の特徴		
	10	発達臨床心理学②	児童期、学童期の発達の特徴		
	11	発達臨床心理学③	思春期、青年期の発達の特徴		
	12	発達臨床心理学④	中年期、老年期の発達の特徴		
	13	学習心理学①	レスポデント条件付け、オペラント条件付け、動機づけ、		
	14	学習心理学②	学習無力感、欲求階層説、IQ		
15	グループワークとまとめ	KJ法			

授業科目 (科目ID)	哲学		担当教員  (実務経験)	尾形 敬次  市内専門学校、大学にて哲学・生命倫理学等の教育に30年以上に渡り従事		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	医療者は医療技術者である一方、医療技術の開発者、つまり医学の研究者でもある。無論、この研究は科学一般のパラダイムに従って、つまり科学研究の前提となる態度と方法に従って行われなければならない。また、一般に科学理論に従うことが、誤った治療方法に陥らないための条件でもある。見方を変えると、これに従わなかったため治療成果が挙げられない場合、医療者に弁明の余地はなく、医療者個人が責任を取らなければならない。上のような背景事情を前提にしつつ、講義という形態の中に随時演習を取り入れ、それによって学生が科学の理解を深め、その思考態度を確立するのがこの講義の目的・目標である。					
到達目標	科学的思考態度の習得は中等教育の目標でもあり、そこにおける学生の習熟度に応じて講義の中での演習を行う。したがって授業は随時提出される演習課題への学生の解答をフィードバックさせて行われる。この講義は科学哲学の講義であり、学生が科学者としての態度を身につけることを目標とする。つまり、知識の蓄積ではなく、知識を作り出すための態度の形成が目標である。					
テキスト・参考図書等	特に指定なし					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	授業時間内に行う問いの解答の成績と、学期末の筆記試験を総合して評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	50%				
その他	%					
履修上の留意事項	知識の集積ではなく、むしろ態度の習得が目標なので、習得すべき個々の学習内容はあらかじめシラバスで提示できるが、時間ごとの講義内容を前もって明示することはできない。下のコマ数は目安に過ぎず、講義はおおむね以下の順序で行われるが、必要に応じて随時、テーマを避けることがある。科学活動は職業上、自分たちに直接関与してくる。その自覚をもって授業に臨んでほしい。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	科学とは何か	西洋文化としての科学			
	2	科学と非科学	哲学と科学、宗教と科学、科学とエセ科学			
	3	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム			
	4	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム			
	5	近代科学のパラダイムと相容れない科学	19世紀後半以降の科学の成果。無意識、進化、量子			
	6	科学的探究の方法	実験と観察、帰納と演繹、仮説演繹法と反証可能性			
	7	科学的探究の限界	神経ダーウィニズムとセンス・データの限界			
	8	科学の新たなパラダイム	自己組織化、オートポイエーシス等の仮説			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	実践コミュニケーション		担当教員  (実務経験)	水尻 恵利伽  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて作業療法士として5年間勤務		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	医療職におけるコミュニケーションの重要性や医療職に必要とされる、接遇・態度・マナーについてその重要性を理解する。					
到達目標	コミュニケーション手段の種類とその特徴・利用法について理解し、対象者や場面に合わせたコミュニケーションが実践できる。					
テキスト・ 参考図書等	諏訪茂樹 対人援助とコミュニケーション第2版 中央法規					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	コミュニケーションスキルの問題は必ず誰もがぶつかる壁である。対象者をはじめ他者との関係作りの基本となるものなのでとても重要である。積極的に演習に取り組むこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	イントロダクション、対人援助とコミュニケーション①	授業の概要と予定、成績評価、指導と援助			
	2	対人援助とコミュニケーション②、コミュニケーションの分類①	指導と援助、コミュニケーションの語源、分類			
	3	コミュニケーションの分類②、コミュニケーション効果	コミュニケーション効果、メッセージ、挨拶、敬語			
	4	交流分析①	三つの自我、交流パターンの分析、自我状態の確認			
	5	交流分析②	私は何者か、エゴグラム、エゴグラム分析			
	6	交流分析③	他者から見たエゴグラム、他者から見た自分(フィードバック、ジョハリの窓)			
	7	他者から見た自分	Positive feedback(ほめる、ほめられる)			
	8	指示・助言・支持①	指示(ブラインドワーク)			
	9	指示・助言・支持②	助言(助言カード)			
	10	指示・助言・支持③	支持(支持トレーニング)			
	11	傾聴と共感①	アクティブリスニング、受容			
	12	傾聴と共感②	共感			
	13	コミュニケーション技法①	促し、繰り返し、明確化、要約、共感			
	14	コミュニケーション技法②	共感、開かれた質問、解釈			
15	コミュニケーション技法③、接遇	保証、沈黙、対決、接遇の意味と必要性、尊敬語、謙譲語、丁寧語、実習先への電話がけ、身だしなみマナー				



授業科目 (科目ID)	表現論	担当教員  (実務経験)	小熊 真喜子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	スタディスキルズを高める。学校における様々な課題の取り組みのためのポイントについて知る。				
到達目標	スタディスキルズを高めていくためのポイントを列挙できる。学校生活をするための、授業受講・予習復習・テスト勉強・スケジュール管理のポイントを列挙できる。報告書(レポート)・プレゼンテーションなど様々な表現の機会のために必要な基本的事項について表現技法を習得する。臨床実習に向け、実習日誌・メモ・お礼状などの作成ポイントを列挙できる。				
テキスト・参考図書等	知へのステップ、(参)PTOTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期試験は前期1回のみ実施する。 提出物の内容によって点数とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	50%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	講義⇒宿題⇒振り返りという、体験型の授業となる。書く力を高めるため、一つ一つの課題を取組むとよい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・スケジュール管理と学習計画	生徒と学生・スタディスキルとは？		
	2	授業受講・ノートテイキング	目標と計画・シラバスの読み方 5分間作文		
	3	教科書を読む・疑問を持つ・質問する	授業の受け方・ノートの取り方		
	4	調べる・まとめる・説明する	内容を理解しながら読む・疑問点を列挙する・質問する工夫		
	5	感じる・主張する	疑問点を効率的に調べる。比較読み・要約。事実と意見・感想の違い		
	6	わかりやすい発表(1)	プレゼンテーションの種類・方法 課題の提示 比較読み		
	7	わかりやすい発表(2)	スライド・読み原稿の作成方法 動画の撮影方法		
	8	わかりやすい発表(3)	プレゼンテーション動画の視聴とフィードバック体験		
	9	要点をつかむ	テストに向けた勉強法・要点をつかむコツ		
	10	実習直前講座(1) 臨床実習での学び・メモの書き方	臨床実習の目的と学習の流れ・メモを取るポイント		
	11	実習直前講座(2) 実習日誌・学生紹介書	実習日誌・学生紹介書の目的・書き方		
	12	実習直前講座(3) お礼状	お礼状の目的・書き方		
	13	実習直前講座(4) 評価場面の記録	評価場面の報告と考察・感想の書き方		
	14	実習直前講座(5) ビジスマナーと口頭報告	挨拶の仕方・敬語の使い方・口頭報告の方法		
15	実習直前講座(6) SOAPIによる記録	SOAPを使った記録の利点・SOAPIによる情報整理の流れ			





授業科目 (科目ID)	人財育成概説		担当教員  (実務経験)	柿崎 貴浩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	・本校学生としての基本的な心構えを知る。・医療人に必要とされる資質とは何かを諸先輩から話を聞き知る。					
到達目標	・社会人として必要な常識や心構え、人間関係を築くための意志伝達スキルを理解する。					
テキスト・ 参考図書等	配布資料					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート課題により評価する。			
	レポート	100%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	・緊張することなく真摯な姿勢で聞く。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	本校の教育理念・学則等について			
	2	接遇の意味・学ぶとは	礼儀とは、受講姿勢について			
	3	PT・OTに必要な資質とは	社会はどんな若者を求めているか①			
	4	PT・OTに必要な資質とは	社会はどんな若者を求めているか②			
	5	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは①			
	6	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは②			
	7	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは③			
	8	ビジネスマナーについて	社会人かつ医療職に必要なビジネスマナー			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	人財育成概説	担当教員  (実務経験)	大山 節夫  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高等学校で校長を歴任、また北海道の教育行政に長く従事
対象年次・学期	1年・前期	担当教員	伊藤 隆
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて作業療法士として20年以上勤務
		担当教員	吉田 克彦
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 本校校長として職員の人事採用やマネジメントを行う
		担当教員	大森 達也
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内・道内の整形外科病院で理学療法士として10年以上、本校理学療法学科教員として3年勤務。スポーツクラブ代表取締役社長に従事
		担当教員	田宮 高道
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内脳神経外科病院にて作業療法士として10年以上勤務。リハビリテーション科の技師長として従事
		担当教員	前田 健郎
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 採用に関するコンサルティング会社の代表取締役社長。道内の多くの大学で各種就職ガイダンス・講演に従事
		担当教員	吉田 浩晃
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 吉田学園総合事務局長として人事採用に携わる、理学療法士
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	解剖学 I		担当教員	飯島 治之		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。					
到達目標	・理学療法士・作業療法士にとって重要である運動器系としての骨・関節・靭帯・筋およびその詳細について学習し、基礎的知識を身につける。 ・基本的な解剖学の名称と各器官の関連性、および人体に於ける3次元的な位置関係について理解する。					
テキスト・ 参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	中間試験、前期試験を実施し、合計点が120点未満の者には再試験を実施する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	・学習する範囲・量が膨大なので、講義を集中して受け予習・復習を怠らないこと(怠ると他の科目にも影響します)。私語は慎むこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖学概論	解剖学用語、身体各部の名称			
	2	骨学概論	骨の種類、組成、基本構造			
	3	頭蓋骨1	脳頭蓋、顔面骨			
	4	頭蓋骨2	脳頭蓋、顔面骨			
	5	脊柱	椎骨			
	6	胸郭	胸骨、肋骨			
	7	上肢1	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨			
	8	上肢2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨			
	9	下肢1	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨			
	10	下肢2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨			
	11	上肢の関節	肩、肘、手の関節			
	12	下肢の関節、(中間試験)	股、膝、足の関節			
	13	筋学概論	筋の種類			
	14	頭部の筋	表情筋、咀嚼筋			
15	頸部の筋	浅頸筋、舌骨筋群				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	胸部の筋	浅胸筋、呼吸筋
	17	腹部の筋	腹筋、横隔膜
	18	背部の筋	浅背筋、固有背筋
	19	上肢の筋1	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋
	20	上肢の筋2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋
	21	下肢の筋1、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋
	22	下肢の筋2、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋
	23	下肢の筋3、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋

授業科目 (科目ID)	解剖学Ⅱ		担当教員  (実務経験)	二宮 孝文  道内・道外医科大学にて解剖学講座に所属し40年以上の経験を有する		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。					
到達目標	・具体的には感覚器、消化器、呼吸器、泌尿器、循環器、神経系、内分泌器について学習し、基本的な解剖学の名称と器官の関連性について理解する。					
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	・前期試験・後期試験のどちらにも合格すること。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	学習する範囲が広範なので、何度も反復して理解を深めること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖学総論				
	2	内臓学総論、消化器	内臓学総論、消化器(1)			
	3	内臓学総論、消化器	内臓学総論、消化器(1)			
	4	消化器	消化器(2)			
	5	消化器	消化器(2)			
	6	呼吸器	呼吸器			
	7	呼吸器	呼吸器			
	8	泌尿器	泌尿器			
	9	泌尿器	泌尿器			
	10	循環器	循環器総論、心臓、動脈、静脈、リンパ系			
	11	循環器	循環器総論、心臓、動脈、静脈、リンパ系			
	12	末梢神経	末梢神経系			
	13	末梢神経	末梢神経系			
	14	感覚器	感覚器(視覚器、平衡聴覚器)			
15	感覚器	感覚器(視覚器、平衡聴覚器)				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	組織(1)	人体の組織と発生
	17	組織(2)	骨・筋
	18	組織(3)	神経組織
	19	中枢神経(1)	神経の変性と再生
	20	中枢神経(2)	脳の発生
	21	中枢神経(3)	脊髄
	22	中枢神経(4)	脊髄
	23	中枢神経(5)	脳神経
	24	中枢神経(6)	脳幹
	25	中枢神経(7)	脳幹
	26	中枢神経(8)	小脳
	27	中枢神経(9)	間脳
	28	中枢神経(10)	大脳皮質
	29	中枢神経(11)	大脳髓質・基底核
30	中枢神経(12)	神経路	





授業科目 (科目ID)	生理学		担当教員  (実務経験)	一瀬 信敏  博士号(地球環境科学)を有し、市内医科大学生理学講座にて10年以上教育に従事		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	・人間が生きていくための仕組み「生理学」は、リハビリを学ぶための基礎として極めて重要である。「この仕組みはどのようにすれば回復させることができるか」と考えながら、しっかり学ぶことを目的とする。					
到達目標	・神経系は電気信号を用いて情報を伝える。このしくみを学び生体の内外の感覚情報の解析と生体が外界に働きかける運動や行動を理解する。					
テキスト・ 参考図書等	生理学(標準理学療法作業療法学 専門基礎分野)第4版 これならわかる要点生理学 参考書籍:解剖生理学、目で見るからだのメカニズム、生理学					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	筆記試験は前期分(中間試験、前期試験)と後期試験それぞれに合格すること。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	・1回ごとの積み重ねが大事であるので必ず出席して集中して講義を聞くこと。 単なる丸暗記では、臨床においては通用しない。「仕組み」「機序」「作用」を理解するよう心掛けること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス			
	2	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス			
	3	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス			
	4	細胞の構造と機能	細胞 体液 細胞の透過性 静止電位 活動電位			
	5	細胞の構造と機能	細胞 体液 細胞の透過性 静止電位 活動電位			
	6	細胞の構造と機能	細胞 体液 細胞の透過性 静止電位 活動電位			
	7	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄			
	8	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄			
	9	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄			
	10	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄			
	11	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期			
	12	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期			
	13	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期			
	14	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量 呼吸ガスと血流ガス 呼吸の調節			
15	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量 呼吸ガスと血流ガス 呼吸の調節				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
	17	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
	18	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成 腎機能の調節、排尿
	19	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成 腎機能の調節、排尿
	20	内分泌	ホルモンとは、視床下部-下垂体系、甲状腺 上皮小体、膵臓等
	21	内分泌	ホルモンとは、視床下部-下垂体系、甲状腺 上皮小体、膵臓等
	22	性と生殖	生殖器、受精と妊娠
	23	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
	24	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
	25	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
	26	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
	27	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
	28	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
	29	酸塩基平衡	体液のpH、血液の緩衝系、酸-塩基平衡の異常
	30	酸塩基平衡	体液のpH、血液の緩衝系、酸-塩基平衡の異常
	31	神経I	神経入門・興奮の成り立ち
	32	神経II	興奮の伝導と伝達
	33	神経系	シナプスと神経系
	34	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経の機能
	35	中枢神経系 I	脊髄の機能
	36	中枢神経系 II	脳幹各部位の機能
	37	中枢神経系 III	随意運動の調節
	38	中枢神経系IV	大脳皮質の機能
	39	感覚 I	感覚入門・受容器の性質
	40	感覚 II	感覚各論
	41	筋の収縮	筋肉入門・筋収縮の生理学
	42	筋の収縮	骨格筋の張力
	43	筋の収縮	骨格筋収縮のエネルギー
	44	筋の収縮	固有感覚と筋電図
45	筋の収縮	心筋と平滑筋	

授業科目 (科目ID)	生理学	担当教員  (実務経験)	吉田 香織  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	目黒 文彦
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
		担当教員	横野 裕行
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員	竹中 謙将
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員	和田 英峰
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員	元木 純
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員	水尻 恵利加
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院において5年以上作業療法士として勤務
		担当教員	武田 祐貴
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	山田 里見
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	生理学実習		担当教員  (実務経験)	武田 祐貴  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	・生理学の講義で得られた知識を、実習を通してより深く理解する。・実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、観察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。・実験の一連の過程(目的、方法、結果、考察)について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。				
到達目標	①生理学の知識を基に、実習を行い、その結果を分析・考察することができる。 ②実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載することができる。				
テキスト・ 参考図書等	生理学(標準理学療法作業療法学 専門基礎分野)第4版 これならわかる要点生理学				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	各実習のレポート評価点により評価。		
	レポート	100%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	レポートでは「実習内容を正確に詳細に記述する」、「文献の丸写しではなく、自らの考えを交えて書く」ことを心掛けること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方(担当: 小熊、武田)		
	2	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方(担当: 小熊、武田)		
	3	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方(担当: 小熊、武田)		
	4	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方(担当: 小熊、武田)		
	5	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方(担当: 小熊、武田)		
	6	実習	筋力測定		
	7	実習	筋力測定		
	8	実習	皮膚感覚		
	9	実習	皮膚感覚		
	10	実習	皮膚感覚		
	11	実習	皮膚感覚		
	12	実習	心電図		
	13	実習	心電図		
	14	実習	心電図		
15	実習	心電図			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	実習	筋電図
	17	実習	筋電図
	18	実習	筋電図
	19	実習	筋電図
	20	実習	呼吸機能
	21	実習	呼吸機能
	22	実習	呼吸機能
	23	実習	呼吸機能

授業科目 (科目ID)	生理学実習	担当教員  (実務経験)	小熊 真喜子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当教員	竹中 謙将
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員  (実務経験)	和田 英峰  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員  (実務経験)	元木 純  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員  (実務経験)	横野 裕行  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員  (実務経験)	水尻 恵利伽  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院・介護保険施設において作業療法士として5年勤務
		担当教員  (実務経験)	池田 保  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員  (実務経験)	江戸 香苗  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年勤務
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	運動学		担当教員  (実務経験)	吉田 香織  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士は対象者の運動、動作、活動を観察・分析して治療に繋げる。この科目では、そのために必要な人間の正常な運動のメカニズムを理解することが目的である。					
到達目標	・運動に関する原理・原則など、基本的事項を理解し説明できる。・人間の運動の基礎となる、身体の構造と機能を理解し説明できる。・各関節運動の特徴や、運動に作用する筋について説明できる。					
テキスト・参考図書等	基礎運動学 第6版 補訂					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	人間の運動がなぜ、どのように起こるかを学び、理学療法・作業療法の土台となる学問である。履修する範囲が広域ですし力学や解剖学の基礎的知識が不可欠なので、予習、復習を十分に行なうこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する			
	2	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する			
	3	機能解剖:足	足関節の構造と機能について学習する			
	4	機能解剖:足	足関節の構造と機能について学習する			
	5	機能解剖:膝関節	膝関節の構造と機能について学習する			
	6	機能解剖:膝関節	膝関節の構造と機能について学習する			
	7	機能解剖:膝関節	膝関節の構造と機能について学習する			
	8	機能解剖:膝関節	膝関節の構造と機能について学習する			
	9	機能解剖:股関節	股関節の構造と機能について学習する			
	10	機能解剖:股関節	股関節の構造と機能について学習する			
	11	機能解剖:股関節	股関節の構造と機能について学習する			
	12	機能解剖:股関節	股関節の構造と機能について学習する			
	13	機能解剖:肩関節	肩関節の構造と機能について学習する			
	14	機能解剖:肩関節	肩関節の構造と機能について学習する			
15	機能解剖:肩関節	肩関節の構造と機能について学習する				

回数	履修主題	履修内容
16	機能解剖:肩関節	肩関節の構造と機能について学習する
17	機能解剖:肘関節	肘関節の構造と機能について学習する
18	機能解剖:肘関節	肘関節の構造と機能について学習する
19	機能解剖:手	手関節の構造と機能について学習する
20	機能解剖:手	手関節の構造と機能について学習する
21	機能解剖:体幹	体幹の構造と機能について学習する
22	機能解剖:体幹	体幹の構造と機能について学習する
23	姿勢・歩行	姿勢と正常歩行のメカニズムについて学習する



